

令和2年度 第1回 十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会（書面開催）結果

令和2年度第1回十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、書面にて開催しました。

■ 開催日 令和2年10月12日（月）

■ 出席委員 29名全員

■ 会議次第

1 議事（資料1・資料2）

- (1) 第3期十勝定住自立圏共生ビジョンの年度改訂（案）の承認について
- (2) 今後の取り組みに対する意見・提案について

（参考資料） 共生ビジョン懇談会における主な意見の概要と意見に対する考え方（資料3）

（提出様式） 意見提出シート（資料4）

2 報告

- (1) 十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱の一部改正について（資料5）
- (2) 新任委員紹介について

■ 開催結果

1 議事

- (1) 第3期十勝定住自立圏共生ビジョンの年度改訂（案）の承認について
事務局において、資料1中、1－（1）の表のとおり変更した年度改訂（案）（資料2）を作成し、すべての委員から、現時点における改訂内容についてご承認をいただきました。
- (2) 今後の取り組みに対する意見・提案について
地域の課題解決や十勝圏のさらなる発展に向けて、単独の市町村では対応困難な課題や、連携により効果が上がると考えられる取り組みなどについて、各委員からご意見をいただきました。その概要及びご意見に対する考え方は次のとおりです。なお、No.16については、ご意見ではなく、ご感想としていただきましたので、概要のみ掲載いたします。

No.	関連協定項目等	意見の概要	意見に対する考え方
1	■1-1- (2) 地域医療体制の 充実	資料3で、取り組み区分が「継続協議」となっているNo1・2の医療に係わる意見を最終版に盛り込むよう強く要望する。	資料3のうち、取扱区分を「継続協議」としているご意見については、引き続き、協議・検討を進めてまいります。
2	■1-1- (2) 地域医療体制の 充実	病院やクリニックの数は多いが、往診ができる地域医療従事者（医師）がほとんどいないので、住み慣れた地域で安心して暮らせる医療体制の整備が必要である。	医療体制の整備については、十勝総合振興局が、管内における訪問診療や往診等の医療体制の構築に向けた取り組みを進めており、各市町村においては、引き続き、道や医療機関等と連携しながら、地域の医療体制の整備に向けて必要な協力を行ってまいります。
3	■1-2 福祉分野	障害者雇用を積極的に行う「プロジェクト芽室」のような取り組みを各市町村でも実施してほしい。	障害者等が希望や能力、適性を十分に活かし、障害の特性に応じて活躍することができるよう、各市町村において、これまで地域の実情に応じた障害者雇用の促進に向けた取り組みを進めており、いただいたご意見も参考としながら、引き続き、取り組みを進めてまいります。
4	■1-2- (1) 地域活動支援センターの 広域利用の促進	一部の障害児（者）しか地域活動支援センターを利用していない。帯広市内各圏域に、生きにくさを感じる方やその家族の居場所、情報交換できる場をもっと増やすことが必要である。	十勝定住自立圏においては、各市町村の地域活動支援センターの広域利用により、生活圏の拡大や地域社会との交流につなげてきております。 また、各市町村においては、様々な障害福祉サービスを提供しており、引き続き、地域の実情に応じて、障害者やその家族の支援に取り組んでまいります。
5	■1-3 教育分野	十勝定住自立圏の取り組みは、コロナ禍にあって、ますます重要性が増しており、こうした取り組みを小中学校でしっかり学ぶことが大事である。	子どもたちが、十勝定住自立圏の取組項目であるフードバレーとかちの推進や低炭素社会の構築など、地域の特色や資源を活かした取り組みを理解することは、地域に対する誇りや愛着の形成に大きく寄与するものであると考えております。 各市町村においては、これまで特色ある教育を展開してきており、引き続き、地域の現状や課題に関する学びの機会を提供してまいります。

No.	関連協定項目等	意見の概要	意見に対する考え方
6	■1-3-(2) 生涯学習の推進	地域の大学生、短大生、高校生など若者だけでなく、障害児（者）やLGBTなど多様な個性を持った方も協働で取り組める企画があってもいいのではないか。	各市町村においては、誰もが参加できる講座等を開催してきており、引き続き、生涯にわたって学習することができる機会を広く提供してまいります。
7	■1-3-(3) スポーツ大会等の誘致	帯広市内では、電動車いすサッカー、ボッチャなど様々なパラスポーツに取り組む団体があることから、パラスポーツ大会の誘致も積極的に行うべきである。	十勝定住自立圏の取組項目である「スポーツ大会等の誘致」には、パラスポーツ大会等も対象としていることから、引き続き、誘致に向けた取り組みを進めてまいります。
8	■1-4-(2) フードバレーと かち及びバイオ マスの利活用の 推進	十勝は、大規模で機械化された農業を展開している地域と、機械化には適していないが、畜産の生産力が高い地域とに分かれている。畜産に適した地域ではチーズなどへの加工により、価値を高めて生産額の増加を図る取り組みを一層進めるなど、今後の十勝農業は、地形による違いを考慮しながら、原材料移出型から、食品加工を通じた付加価値の高い生産拠点への移行を目指すべきである。	十勝は「食・農」が強みであることから、「食」と「農業」を柱とした地域産業政策である「フードバレーとかち」の推進を十勝定住自立圏の取組項目に位置付け、大手企業との連携による新商品の開発、全国販売をはじめ、国際戦略総合特区を活用した農産物加工施設の設置支援など、付加価値向上に努めてきております。 今後も、管内の地域特性に応じて、十勝の安全で高品質な農畜産物を活かした商品開発や食品加工など付加価値向上の取り組みを進めてまいります。
9	■1-4-(2) フードバレーと かち及びバイオ マスの利活用の 推進	日本の食料基地・十勝の地位は誰もが認めるところであり、農業由来の資源を活用し、電力産業やバイオマスによる地域公共交通など様々な分野に波及させ、持続可能な安全・安心な地域社会のサークルを構築すべきである。	家畜糞尿を利用したバイオガスプラントの設置拡大などエネルギー自給社会の形成を目指した取り組みを進めてきており、引き続き、持続可能な地域づくりに取り組んでまいります。
10	■1-6-(1) 地域防災体制の 構築	ICT 技術を活用した緊急通報の受信の確実化など、災害情報の確実な入手を本計画の中に位置付ける必要がある。	十勝定住自立圏では、各市町村において、「全国瞬時警報システム（J-ALERT）」や「災害情報共有システム（L-ALERT）」の整備・運用などを通じ、災害・緊急時の広報・通信体制の充実に取り組んでおり、引き続き、必要な取り組みを進めてまいります。

No.	関連協定項目等	意見の概要	意見に対する考え方
11	■1-6-(1) 地域防災体制の構築	<p>現在指定されている避難場所は、常時医療支援が必要な要介護者や強度行動障害など重度の障害者の方にとっては、電力やベッドが不足するなど避難できない場所となっている。このため、避難訓練時にも障害者、要介護者の受け入れを想定するとともに、当事者の意見を聞き、設備の整備のほか、マンパワーを確保してほしい。</p>	<p>障害者や要介護者など、災害時に支援を必要とする方の安全確保については、各市町村において、地域の福祉施設等と連携を図りながら、緊急連絡体制や避難誘導等の防災体制の整備に取り組んでいるところであり、今後も、各市町村において、地域の実情に応じて必要な対応を図ってまいります。</p>
12	■2-1-(1) 地域公共交通の維持確保と利用促進	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、公共交通の利用が減少しており、今後も元に戻らないことが懸念される。このことから、管内市町村が連携して十勝全域における「地域公共交通計画」を策定し、複数の交通モードを連携させた新しい生活様式を踏まえた利用促進策など、様々な利用促進事業を計画に位置付け、取り組みを推進していく必要がある。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症による公共交通機関の利用者減少や移動回数そのものの低下は、公共交通の維持確保に影響を及ぼすものと捉えています。</p> <p>これまでの取り組みに加え、時代の変化に対応した生活交通路線の維持確保及び利用促進策について、国や道、関係機関等と連携しながら取り組みを進めてまいります。</p> <p>また、十勝地域における「地域公共交通計画」のあり方については、十勝総合振興局が主体となり、管内市町村との協議を進めているところです。</p>
13	■2-1-(1) 地域公共交通の維持確保と利用促進	<p>各町村では町内移動のため、コミバス等を運行しているが、今後、高齢による免許返納者や郊外居住者の支援が必要であると思われる。そのため、先進的取り組みの視察研究や各町村の情報交換が必要と思われる。</p>	<p>各市町村における公共交通施策については、十勝地域生活交通確保対策協議会及び各分科会において情報交換を実施しています。</p> <p>また、全国各地の先進事例や新技術を活用した実証実験等に関する情報収集を随時行っています。</p> <p>今後もこうした情報交換や情報収集を継続して実施するなど、地域の実情に合致した公共交通の実現に向けて取り組んでまいります。</p>

No.	関連協定項目等	意見の概要	意見に対する考え方
14	■3-1-(1) 職員研修及び圏 域内人事交流	地域の様々な世代、多様な個性を持つ方々などと地域の中でも交流、研修をすべきである。資料や統計、机上の話し合いではなく、地域へアウトリーチして地域を体感・体験することが必要である。	十勝定住自立圏では、圏域内で共通する「自治体職員が養うべき基礎的なスキル」に焦点を当てて合同研修を実施しております。そのため、地域の方々と交流するといった、より地域に即した研修はそれぞれの自治体において実施することが望ましいと考えています。 しかしながら、いただいたご意見は、職員を育成する上で大切な視点であると考えておりますので、研修のあり方に関わるご意見として、今後の取り組みの参考とさせていただきます。
15	■全分野	「コロナ禍」により、「定住自立圏」の都市圏から地方圏への人の流れの創出は、さらに大きな意義を持つと思う。すべての分野に「コロナ禍」は大きく影響があり、コロナ禍対策を考慮した共生ビジョンをつくる必要があると思う。	十勝定住自立圏では、これまで、仕事の創出や交流人口の拡大、安心して暮らせる生活基盤の強化などに取り組んできています。現時点において、コロナ禍を考慮した協定内容の追加・変更の考えはありませんが、住民生活をはじめ様々な分野に感染症の影響が及んでいることから、今後も、情勢の変化にしっかりと対応し、管内19市町村が相互に連携しながら、共生ビジョンに基づく取り組みを着実に進めてまいります。
16	■1-3-(3) スポーツ大会等 の誘致	新型コロナウイルスの感染拡大により、スポーツ大会等のイベントの開催は、大規模な大会になるほどリスクが伴う。状況に応じて、感染防止対策を徹底しながら、良いワクチンが開発されるまでは、今後の事業計画にも甚大な影響が生じると思う。予防策、健康管理に気を付けて、コロナ禍を乗り越えましょう。早い終息を願っている。	

2 報告

- (1) 十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱の一部改正について
帯広市の組織再編に伴い、共生ビジョン懇談会の事務局所管課が変更となったことから、要綱第7条を企画室企画課に改めたものです。
- (2) 新任委員紹介について
産業振興分野からご就任いただいております小倉委員から辞任の申し出があったことから、後任として中川委員にご就任いただいております。

以 上